

練習及び競技中の注意点

1. 選手

- ① コートへの入退場は、それぞれ指定された時間に、速やかにコートに集合する。
(移動の際は2 m以上の間隔を空ける)。
- ② コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しないので、バッグ等を持参し、コートサイドに置き、ドリンクも各自のバッグに収容する。こぼした時は、モップ等で拭きとる。(自分のタオルを使用して拭かない)
- ③ ラケット・タオル等の用具の貸借はしない。
- ④ 床の汗拭きは、モップもしくは所定の用具を使用する。
- ⑤ 汗をコート内やコートサイドに投げない。
- ⑥ シューズの裏を手で拭かない。
- ⑦ 意識的に試合中の声出しはしない。
- ⑧ プレーヤー同士や監督・コーチ等とハイタッチ等の接触を行わない。
- ⑨ 本部提供の使用済みシャトルは、各コート主審台下のカゴに入れる。

2. 審判員

- ① 主審、線審、得点係は、マスクを着用する。(熱中症対策として水分補給を行う)
- ② 主審・線審、得点係は、各コートに用意してあるビニール手袋を着用する。
- ③ 毎試合終了後、
 - ・線審は、各コートに設置した消毒用具を使って、審判台・線審席・コーチ席・得点板等を消毒する。
 - ・得点係は、コートにモップを掛ける。
 - ・団体戦の場合、ベンチ席の消毒は各チーム1名が行う。
- ④ 選手同士や審判員との握手は行わない。
- ⑤ トスは、距離(フィジカルディスタンス)を確保して行う。
- ⑥ コールは、必要最小限とする。
 - ⇒「プレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみで行う。
 - ⇒線審は、指定の合図を行い、コールをしない。(主審とのアイコンタクトが重要)
 - ⇒得点板がある場合は、ポイントのコールをしない。
- ⑦ 本部提供シャトルを使用する際は、シャトルの交換は、選手がシャトルを直接筒から取り出すか、選手が一定の距離にきたら、投げて渡す。本部提供シャトルの交換時は、選手が回収ボックスに入れる。

3. 監督・外部指導者

- ① 監督・外部指導者は、マスクを着用する。(熱中症対策として水分補給を行う)
- ② コーチ席は、1席のみとする。コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間で行う。(選手がエンドを替わる際は、コーチ席はコーチ席に入った者が自身で移動する。)
- ③ プレーヤー同士や監督・コーチ等とハイタッチ等の接触を行わない。

審判員の仕事

1 審判担当の割り振り

<団体戦>

1. 試合は、3コートを使用し、同時進行で行う。(1コート4名×3コート=12名)
 - ・コート番号の早い方から順に、第1ダブルス・シングルス・第2ダブルスを行う。
2. 審判は、タイムテーブルの審判担当校(2校×6=12名)が担当する。
 - ①第1ダブルスは、チーム番号の早い学校が担当する。(4名)
 - ②シングルスは、審判担当校2校で担当する。(4名)
 - ・チーム番号の早い学校が、主審・得点係を担当する。(2名)
 - ・チーム番号の遅い学校が線審(2名)を担当する。(2名)
 - ③第2ダブルスは、チーム番号の遅い学校が担当する。(4名)

*事前に担当者を決めておく。

(例) 男子試合番号2 (7. 土合中 v s 8. 神川中)

審判担当は、男子試合番号3の(9. 三室中 v s 10. 越谷東中)

試合番号	コート番号	試合	審判員
男子2	2	第1ダブルス	三室中4名(主審・得点係・線審2)
	3	シングルス	三室中2名(主審・得点係)、越谷東中2名(線審)
	4	第2ダブルス	越谷東中4名(主審・得点係・線審2)

<個人戦>

1. 審判は、タイムテーブルの審判担当選手が行う。

2 主審の仕事

1. コートに行く前に以下の準備をする

- 各自、筆記用具を持参する。
- 本部放送の指示により、担当コートでビニール手袋を着用し、本部に行く。
- 試合のコールがされたら、本部からセットを受け取る。
 - ⇒シャトル係に「男女の別」「試合番号」「コート番号」を伝える。
 - 本部からの必要シャトル数を確認し受け取る。(例:女子試合番号2番、2コートです)

2. コートに行ったら以下のことを確認する

- 線審のイスの位置(ダブルス、シングルス)を確認する。
- 得点係がいるかを確認する。
- 選手の服装を確認する。
 - ・シャツは規定のものか(審査合格品または関東Tシャツ)
 - ・ゼッケンは4か所留める
 - ・あいさつ、各ゲーム開始時にシャツを入れさせる

- 監督および外部指導者の服装を確認する。
 - ・ I Dカード（監督証・外部指導者証）の着用
 - ・ シューズの着用（スリッパ、サンダルは不可）
- 応援生徒（ベンチ入りできる人とその数を確認）を確認する。
- 選手の荷物の置き場を確認する（主審の脇・ショートサーブスラインあたり）。
- 選手が集まった際に、各人の115cmの位置をポストの印で確認する。
- シャトルの確認をする。
 - ・ 本部提供のシャトルを使用するか、持ち寄りのシャトルを使うか。（意見が違う場合は、トスで決める）
 - ・ 持ち寄りのシャトルを出す順番をトスで決める。
- トスをして「エンドを選ぶか」「サーブ・レシーブを選ぶか」を決めさせる。
- サーバーを確認する。（ダブルスの場合はレシーバーも）
- 試打はさせない。（フットワークは可）
- 審判台に上がり、必要事項をスコアシートに記入する。
 - （サーバー&レシーバー、L・R、試合開始時刻）
- コールをして試合を始める。
 - ・ 試合中は線審および得点係とアイコンタクトを取る。
 - ・ 判断できないことがある場合は右手を挙げてレフェリー（または競技審判部長等）を呼ぶ。

3. 試合が終わったら以下のことを行う

- 主審が勝者サインをして、勝者に名前の確認をする。
- 試合終了のコールをする。
- 線審とアイコンタクトを取り審判台を降りる（線審も席から離れてよい）
- 主審セットを本部に返却する。（スコアボード、コイン）
- シャトル係に本部提供の未使用シャトルを返却する。
 - （「男女の別」「試合番号」「コート番号」「本部提供の使用済みシャトル個数」を伝える）
- スコアシートに残りの必要事項を記入する。（審判台でやらず戻ってからやる）
 - ①終了時刻②使用シャトル数③得点・マッチ数④主審サイン（他に漏れはないですか?）
- スコアシートを競技審判部長またはレフェリー等に提出し、チェックを受ける。

3 線審の仕事

- 椅子には浅く腰掛け、背筋を伸ばして座る。
- 膝を組んだり、両足を前に投げ出したりしない。
- シングルスとダブルスでジャッジをするラインが異なるので注意する。
 - （必要に応じて椅子を動かす）
- シャトルが落下すると思われるラインの延長方向に体を動かしてシャトルを見る。
- ジャッジは態勢を低くし、のぞき込むようにして見る。
- シャトルがコート面に落ちるまでジャッジはしない。
- よそ見をせず、自分のラインに責任を持つ。
- 真剣に、そして自信を持って線審を行なう。
- 試合終了後、主審が審判台から合図（アイコンタクト）があるまで、そのまま椅子に座っている。

【ジャッジ】について

*主審とのアイコンタクトが重要になる

<インの時>

- 無言のまま右手でラインを指す。

(おおよそラインから1mの範囲は「イン」のシグナルを出す)

<アウトの時>

- プレーヤー、主審、観客にわかるよう、両腕を開き、手のひらを前に向けた合図をする。
コールはしない。

<線審が判定できない時>

- 判定できない場合は両手で目を覆う。
- 主審が判定できる時は主審の判定が採用される。
- 主審も判定できない時は「レット」になる。

<その他>

- 主審の指示があった場合、汗拭きなどのコート整備を行なう。

4 得点係の仕事

- 主審とのアイコンタクトにより得点表示を行なう。(アイコンタクト前に得点表示に手を触れない)
- 試合中はラリーに集中し、間違いのないようにする。
- ゲームカウント表示も忘れずに行なう。団体戦はマッチカウント表示も忘れずに行う。また、団体戦の場合は、試合に勝った方の「白の数字」をめくる。3コート同時展開なので、他のコートの結果を確認しマッチカウント表示を揃える。
- ファイナルゲームのチェンジエングの際には得点を正しく入れ替える。